

2022年度短期研修

大学図書館職員の スキルアップ法

大阪公立大学

中村 健

2022年10月18日（火） 11：15-12：30（75分）

0. 本日の進め方と自己紹介

AL: 中村, 健(1974-) || ナカムラ, タケシ

職歴

1997.4 民間企業（専門紙）に就職

2001.4 大阪市立大学に就職

担当	従事期間（延べ年）	主な成果
雑誌・電子リソース管理	10年	EJの全学共通経費化創設と見直し
図書館システム	4年	システムリプレイス
機関リポジトリ	4年	機関リポジトリの立ち上げ
サービス	4年	情報リテラシー教育（初年次～院生）

2019.4 雑誌・図書館システム・リポジトリ・整理担当係長

図書館システムリプレイス

大学統合に伴うジャーナル（電子/プリント）契約

2022.4 大阪公立大学（開学）の雑誌・システム担当係長

新大学ジャーナル（電子/プリント）の運用

各システム統合（図書/リポジトリ）とERMSの稼働

0. 本日の進め方と自己紹介

経験のない業務

- ・ 図書受入業務
- ・ 目録（図書） = 目録（雑誌）は経験あり
- ・ ILL = 海外図書館への依頼はあり
- ・ 医学部図書館など学部/部局図書館勤務

一から経験したい業務

- ・ 目録（図書）
- ・ ILL
- ・ メタデータ作成（JPCOAR）

本日の内容（75分）

0.本日の進め方と自己紹介	5分
1.スキルアップ法：短期研修振り返り	15分
2.図書館員のスキルとは	5分
3.スキルアップ法：業務のポイント	15分
事例研究：ある管理・システム系職員のおゆみ	
4.スキルアップ法：温故知新	10分
5.スキルアップ法：他業界との比較	10分
6.質疑応答	15分
7.まとめ	瞬時

1.スキルアップ法：短期研修振り返り

井上昌彦氏（2014～2017）・森いづみ氏
（2018～2021）がともにあげていたこと

- ・ 職場での研修（OJT）
- ・ 自学自習：文献、WEB
- ・ 研修・イベントへの参加→学外の研修
- ・ 委員会やタスクフォースへの参加
- ・ 学外活動：執筆・講演

参照）参考資料1

1.スキルアップ法：短期研修振り返り

学外活動のスキルアップポイント

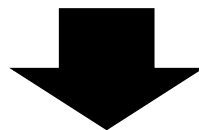
- ・ 通常の業務では得られない情報/スキル/人脈を得られる。＝「今」より「明日」に役立つスキル
- ・ 通常業務に支障をきたさない＝所属の「理解/応援」
- ・ 自らの活動を「可視化」＝所属への還元

業務の分野	内容	役割	スキルアップ
目録	目録講習会	講師/運営	プレゼン力 企画立案力 調整力 人脈 情報
機関リポジトリ	DRF、 XooNIPS	講師/委員	
電子リソース	JUSTICE	委員/講師/司会	
電子リソース/ システム/情報 リテラシー	ベンダー・出 版社のイベン ト	講師	プレゼン力 広報

1.スキルアップ法：短期研修振り返り

まずは…

- ・自分の担当業務をがんばろう
- ・その業務関わる事例を多く知ろう
- ・多種多様な仕事に取り組もう（学内/学外）
- ・多くの人を知ろう（学内/学外）
- ・コラボ、他流試合をしよう（学内/学外）



習って覚えて真似して捨てる（真藤 恒）

2.図書館員のスキルとは

2010年と2020年を比較する

2010

大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる
大学図書館像－ 概要 2010年

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1306126.htm

(2) 大学図書館職員に求められる資質・能力等

1.大学図書館職員としての専門性

大学図書館職員には、図書館に関する専門性に加えて教育研究支援を円滑に行い得る学生や教員との接点としての機能を含めて大学全体のマネジメントができる能力などが求められる。特に最近の状況変化に適切に対応するため、学術情報流通の仕組みに詳しく、学術情報基盤の構築ができる人材の確保が重要。

2.学習支援における専門性

大学図書館職員には、各大学等において行われる教育研究の専門分野に関する知識も求められる。

3.教育への関与における専門性

大学図書館職員が、情報リテラシー教育に直接関わることは新しい方向性であり、教員との協力の下に適切なプログラムの開発を行うことが課題。また、教員や学生とコミュニケーションを図りながら、教育課程の企画・実施に関わることも必要。

4.研究支援における専門性

研究者が文献に容易にアクセスできるように必要な情報資源を関連付けたナビゲーション機能及びディスカバリー機能を強化することが必要。また、機関リポジトリの構築や新たなサービスの開発など従来の専門性をさらに発展させることが期待される。

2. 図書館員のスキルとは

2010年と2020年を比較する

2020

国立大学図書館協会ビジョン2020「新しい人材」（2016）＋各大学（千葉大学、シモンズ大学）での育成プログラムなどを分析

表2 大学図書館機能の変化と大学図書館員に求められる知識やスキルの変化

契機	NACSIS-CATの導入	電子図書館機能の展開	電子ジャーナルの導入	オープンアクセスへの関与	ラーニングコモンズの導入	オープンサイエンスへの関与
時期	1980年代	1990年代	2000年代初頭	2000年代初頭	2010年代前半	2010年代後半
文脈	研究基盤整備	研究基盤整備	研究基盤整備	研究基盤整備	教育・学習支援	研究支援
特徴的变化	機械化、目録の標準化	一次資料の電子化	コレクション概念の変化	学術情報発信	学習支援・教育活動への直接的関与	研究データ管理、利活用支援
主要対象メディア／コンテンツ	図書、雑誌	図書（貴重資料）	雑誌（論文）	雑誌論文、学位論文	教材	データ
基礎となる知識やスキル	目録	目録、データベース管理	蔵書管理	デジタル化、データベース管理、ライセンシング	情報リテラシー教育	目録、データベース管理
新しく求められる（た）知識やスキル	機械化、データベース管理など	デジタル化	ライセンシング	学術コミュニケーション全体に対する知見	教育・学習支援者としての専門職能	分野ごとのデータの扱いや特性の相違

大学図書館に新たに求められている機能は、これまでのようなメディア／コンテンツを中心とした基盤整備ではない。これらを前提とした、学習支援や教育活動に直接的に関与する活動、学術コミュニケーションの円環の中での学術情報の生産、普及、利用を促進する活動を展開することである。このような活動の中心にあるのは人（User）である。また大学図書館員は、これらの活動の中で彼らを支援するというよりもパートナーとして何ができるかということを考えるべきである。また、このような転換の中でもメディア／コンテンツは常に視野に入っており、その利活用が不可欠であるのは言うまでもない。

2.図書館員のスキルとは

	2010	2020	相違点
1	学術情報流通の仕組みに詳しく、学術情報基盤の構築ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア／コンテンツを中心とした基盤整備ではない。 ・彼らを支援するというよりもパートナーとして何ができるか 	より能動的なイメージ 学術情報の生産、普及、利用を促進する活動を展開する
2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー教育に直接関わることは新しい方向性 ・教員や学生とコミュニケーションを図りながら、教育課程の企画・実施に関わる 	学習支援や教育活動に直接的に関与する活動、学術コミュニケーションの円環の中での学術情報の生産、普及、利用を促進する活動を展開する	

スキルアップ法：パートナーとしてより大きな存在感を求められている

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

非「サービス」系図書館員＝サービスを支える仕事

電子リソース・雑誌管理業務＝学術情報の購入と運用

図書館システム業務＝業務システムの安定運用

	システム・管理系	サービス系
相違点 (年度末の意味)	年度末：年度を終わらせる 作業期間 夏休み：EJ外雑発注で多忙 リプレイス：前半	年度末：新年度のための 準備期間 夏休み：棚卸し リプレイス：後半
相違点 (成果の数値化)	エラー件数0 契約価格 ○○○○円安い 数値が小さいほうがよい	入館者数 ○○○人突破 貸出冊数 ○○○冊 数値が大きいほうがよい
業務の対象	ベンダー＞教員＞職員	学生＞教員＞職員

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

雑誌・電子ジャーナル管理

係員：約10年 係長：約4年

- ・主な仕事

全学共通経費による電子ジャーナル購入の方針策定（3回）

ERMSなどを使った電子リソース管理へ挑戦

リンクリゾルバの導入（2回）

- ・苦勞した点

予算獲得：早めの行動/事務ルール/ロジック

新システム：事務に落とし込むのに苦勞

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

スキルアップ！

- ・ 所属の事務ルールを覚える
決裁／契約規程／予算／会計規定／システム
調整方法（5W1Hを知る）
- ・ 「世間」の考え方を意識する
契約に関する新聞記事をよく知ること
（消費税、契約に関するトラブル、外部資金）

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

図書館システム・機関リポジトリ

係員：数年 係長 数年

- ・主な仕事

システムリプレイス主担当（係員1回、係長2回）

機関リポジトリの立ち上げ

自分でDBを作成（例：電子ブック検索）

- ・苦勞した点

システムの新機能を導入する場合は、「見える化」を意識しよう。新しい仕事を該当部門の通常業務に落とし込むために知恵を振り絞ろう

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

図書館システム・機関リポジトリ+目録

- ・当初の見通し（新たな目録業務）と違った点
著作権管理や学位論文など「研究」と地続きの業務が多い
機械化された作業（ハーベスト）が多い



目録における件名、分類のように、メタデータに
カタログが独自に判断するフィールドが少ない

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

運がよかったこと

- ・紙から電子ジャーナルへの移行を体験
業務を通して基本的な仕組みが理解できた
- ・目録からメタデータへの変化を理解
- ・ディスカバリサービス・リンクリゾルバなど
積極的に情報をとれば、新しい潮流に乗れた
- ★導入することが評価された時代
→どのように業務に落とし込むか、運用の成果を評価する時代へ
- ・NII主催の各種講習会でスキルアップができた
業務（出張扱い）の中で他流試合が行えた

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

チャレンジの結果

担当	スキルアップ内容	結果	詳細
雑誌管理	簿記	◎	2級まで取得（20代）
電子ジャーナル 管理	英語・英会話	×	英語力をUPするまで至らず Google翻訳にお世話になる日々
システム	プログラミング	×	挫折
システム	HP作成	○	業務上最小限の知識を覚えた が、自ら深めるところまで至 らず
機関リポジトリ	DB作成	○	電子ブック・貴重書など自ら DBを作成した。
目録	目録	○	問題集に取り組む
（サービス）	情報管理（検定）	×	受験せず

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

図書館サービスと管理・システムスキルの交差点

・情報リテラシー教育

このキーワードで検索するとなぜこの検索結果になるのか？

検索の仕組みとメタデータから説明可能

自分の論文を効果的に流通させる方法とは
学術論文のSEO対策

管理・システム系で培ったスキルをどのように
図書館サービスで生かせばよいのかを知った

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

図書館業務が研究支援にシフトする流れは確実
どのようなスキルが役立つかを見極めたい！！
研究活動に身を置いて研究支援を考えてみた

実践した研究プロセス

プロセス	内容	関連度	図書館業務との関連
研究発表/投稿/出版	研究ノート（査読あり）2本 学会発表 など	◎	学術情報流通 情報リテラシー
研究大会運営	司会・企画		
学会運営	理事		
外部資金PG	サンデー毎日	○	レファレンス
資（史）料受入	サンデー毎日 講談本（吉沢コレクション）	◎	デジタルアーカイブ 保存

3.スキルアップ法：業務のポイント

事例研究：ある管理・システム系職員のあゆみ

研究支援として役立つ図書館員のスキル

◆発信/検索のサポート

- ・何を、いつ、どこに掲載すべきか？

J-STAGE/機関リポジトリ/CiNiiBooks

- ・学会のWEB公開に必要な書誌事項

SEO対策（英文、キーワードの選定）

◆文献検索のサポート

訪問利用/所蔵調査

◆資(史)料受入

図書館機能に対する絶大な信頼

オープンアクセス

伝統的な図書館スキルによる
コーディネート

4.スキルアップ法：温故知新

	事項	最近の状況
1980年代	二次情報検索データベースの時代 (オンライン・CD-ROMを使った検索)	Google Scholar
1985年	NACSIS-CAT提供開始	CAT2020 CAT2022
2000年頃	電子ジャーナル導入 (SD21など)	OA2020 Read&Publishing契約
2005年	CiNii Articlesサービス開始	2022年 CiNii Research
2005年頃	機関リポジトリで紀要・論文公開 へ(1990年後半の電子図書館とは異なるフェーズ)	研究データ管理と機関リポジトリ
2010年頃	何度か目の電子書籍元年	コロナ禍で図書館への電子ブック導入は加速へ

現在は各サービスの転換点にあたるのではないだろうか？

4.スキルアップ法：温故知新

スキルアップするためのポイント

- サービス開始から20年、サービス再編成時の時期である。

対象：NACSIS-CAT CiNii 電子ジャーナル契約

- 歴史は繰り返すが同じ形・現象にはならない

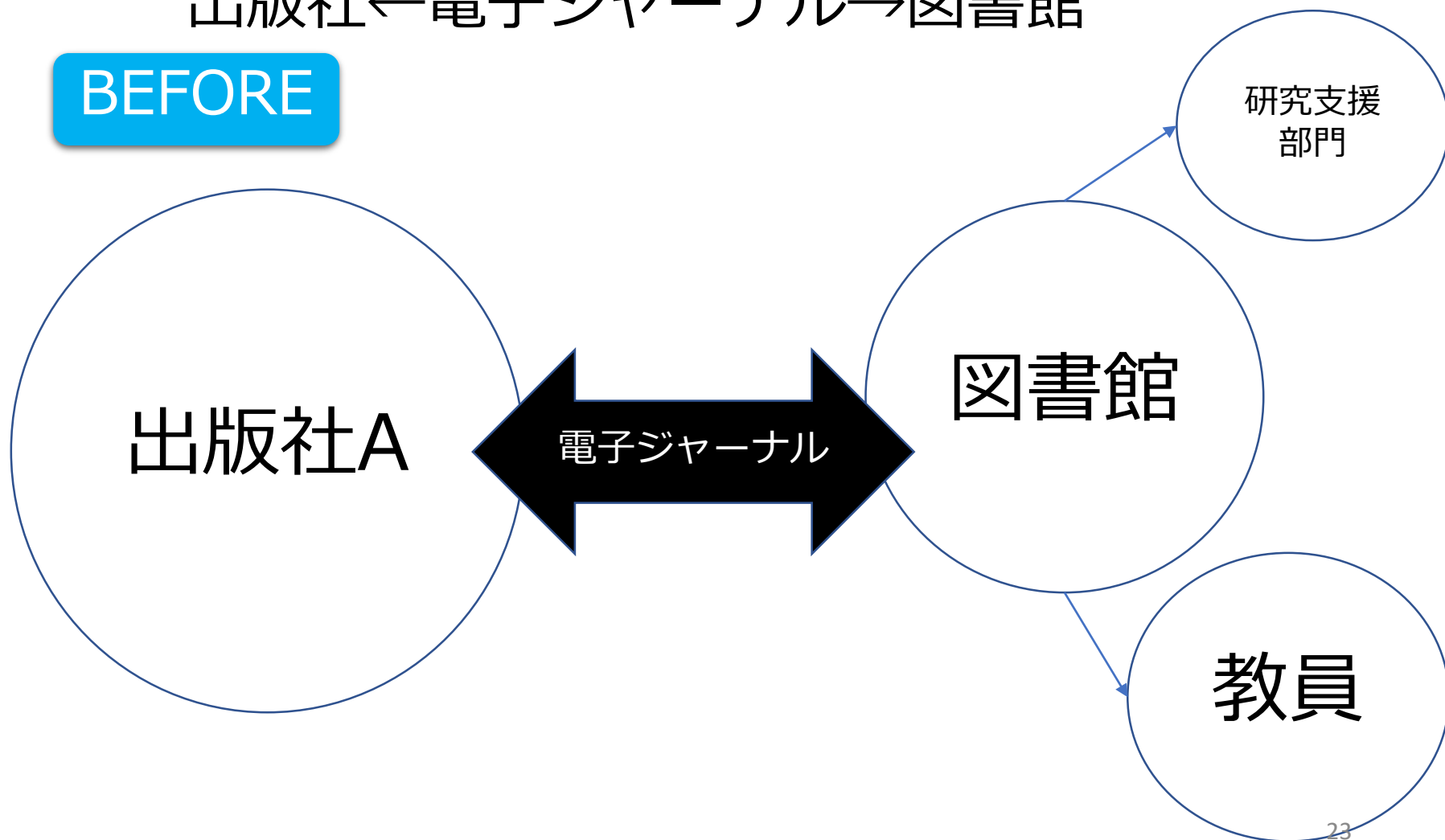
例：目録：図書館は分散（各館対応）から集約（NII）また分散（コミュニティ）へ

この変化にどのように取り組むべきか？

4.スキルアップ法：温故知新

出版社←電子ジャーナル→図書館

BEFORE



4.スキルアップ法：温故知新

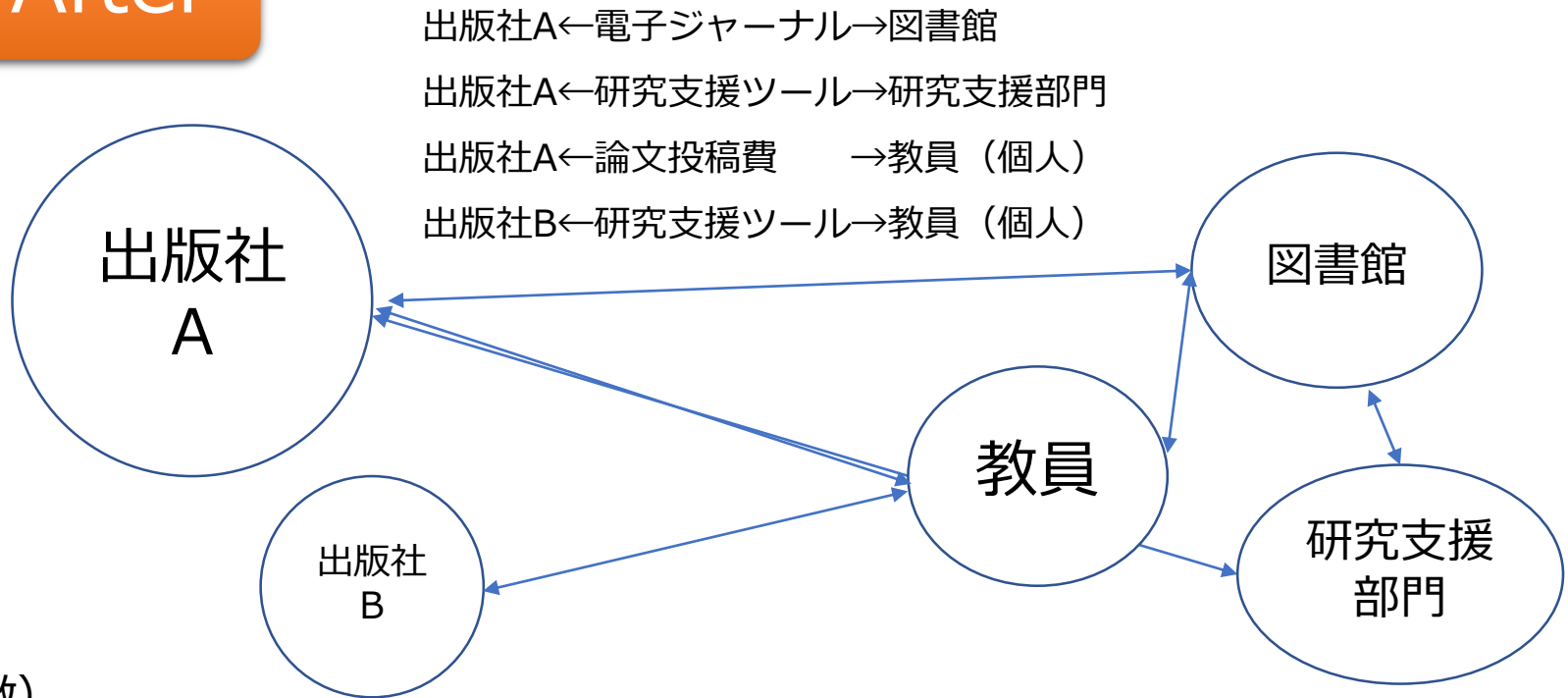
エルゼビア社のM&A



船守美穂「学術論文発表と研究評価を取り巻く環境の大変貌—オープンアクセス誌がもたらすパラダイムシフト」
『セミナー「学術論文発表を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在」講演資料（令和2年1月24日（金）開催）

4.スキルアップ法：温故知新

After



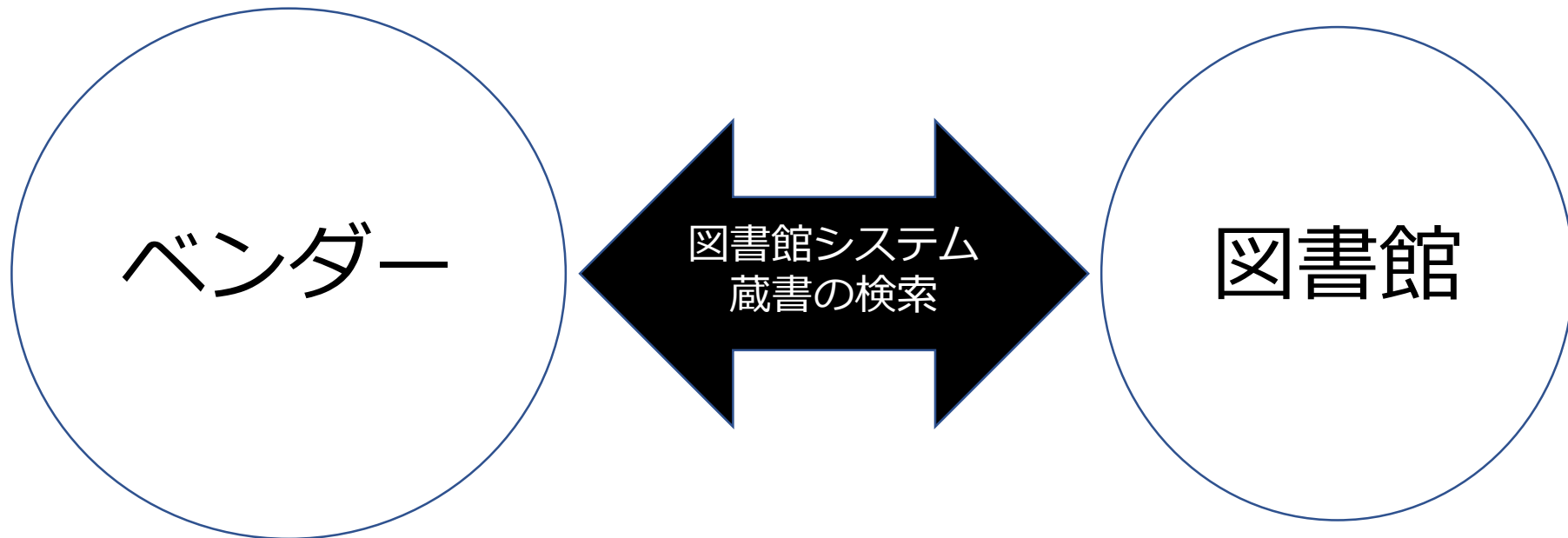
(特徴)

- ・ 出版社は多様なツールを最適のステークホルダーにアプローチする
 - ・ 図書館（中間組織）ではなく個人への提供
 - ・ 図書館員は研究支援を専門とした職員群の1領域
- どのポジションでも活動できるスキル
図書館の立場を踏まえた協同作業ができるスキル

4.スキルアップ法：温故知新

ベンダー←図書館システム→図書館

BEFORE



4.スキルアップ法：温故知新

After

ベンダーA←図書館システム→図書館

ベンダーB←ディスカバリーサービス

ベンダーB←リンクリゾルバー→図書館

ベンダーC←機関リポジトリ→図書館

ベンダーD←デジタルアーカイブ→図書館

出版社B←研究支援ツール→教員（個人）

出版社B←本文誘導ツール（プラグイン）→個人

図書館で扱うシステム検索ツールの多様化、システムのトレンドも変化。

例：インストール型 → クラウド型へ

リンクリゾルバ（有料）→プラグイン（無料）

機関（図書館） → 個人（教員、学生）

システムやトレンドを理解するところに異動・・・継承されない専門性

4.スキルアップ法：温故知新

○「専門性」の変化

図書館システムをきわめる（深く）→

あまたあるサービスの中から最適な組み合わせを選択する（広く浅く）

○対応する力への変化

図書館と出版社の関係→大学として総合的な対応へ（学外（出版社）との交渉力に加え各部署との調整能力が必要なスキルに）

4.スキルアップ法：温故知新

図書館のサービス普及パターンから考える

○キャッチアップ型のサービス

(海外の先進事例を導入するという意味)

電子リソース、研究支援、アクティブラーニング

→**海外の動向を意識したサービス展開が必要**

○日本型（長く定着してきたと仮定）サービス

例：自習する場所としての公共図書館

伊東達也『苦学と立身と図書館：パブリックライブラリーと近代日本』

→**時代に応じた展開を意識する。**

5. スキルアップ法：他業界との比較

分析方法はさまざま

SWOT分析

Strength：強み（プラス要因・内部環境）/Weakness：弱み（マイナス要因・内部環境）
Opportunity：機会（プラス要因・外部環境）/Threat：脅威（マイナス要因・外部環境）

PEST分析

Politics（政治的要因） / Economy（経済的要因）
Society（社会的要因） / Technology（技術的要因）

本講義では簡単な方法を使う

図書館業務を客観的に考えるために、隣接分野や類似のサービスと比較する

図書館業界を考えるために、出版業界が出版事業をどのように見ているか参考文献として次のテキストを使用する。
日本出版学会編『パブリッシング・スタディーズ』印刷学会出版部, 2022.4 書籍/雑誌/大学図書館の各章

5.スキルアップ法：他業界との比較

	プリント版	デジタル版
書籍	一定量の紙の本は流通	漫画から定着
	<div>強</div> 伝統的な蔵書コレクション	<div>弱</div> 漫画の受入
雑誌	紙の雑誌はニッチな分野で発行され続ける	和雑誌のデジタル販売の方法論が展開されだした
	<div>弱</div> ニッチな分野は研究費購入？	<div>強</div> 電子ジャーナル受入経験が役立つ

5. スキルアップ法：他業界との比較

	内容
中抜き論	編集機能は残る。そうした役割に従事する者が「編集者」「校閲者」「出版社」と呼ばれ続けるかどうかはまた別問題だが
	<div>強</div> 図書館機能（購入・管理・保存）は学術情報流通の中に残る。それが「図書館」と呼ばれ続けるかどうかは別問題だが＝ほかの議論とつながる点
発見可能性	書店・新聞・雑誌の書評機能の低下とSNS、動画配信プラットフォームでの評価の拡散メタ情報（書誌情報）の充実とSEO対策
	<div>強</div> WEBを使ったレファレンスを展開してきた図書館にとっては、あらたな情報源ができたと考えればよいのではないだろうか。

5. スキルアップ法：他業界との比較

小まとめ

- ・ 業界比較から見たこと

図書館は日本の電子雑誌・書籍のビジネスモデルとどのようなビジネス関係を結べるのかを模索する段階にきている

- ・ 想定されるスキルアップ法

1. 日本 of 新しい電子書籍・雑誌サービスの導入にあたって学術系電子リソースの契約経験や各種メタデータ運用経験は役立つのでは？
2. 図書館機能は必要とされる。どのように発展させるのか？
3. レファレンスの参考文献をより広い視野で見ること。

6.まとめ

- memo